

1:「日本経済がビリになったワケ」元財務官僚
が語る平成の失策

藤井：こんにちは。藤井厳喜です。

今日は、高橋洋一さんをお招きして、岸田政権の
経済政策批判ということでお話を伺いたいと思っ
ます。

高橋さん、よろしくお願いします。高橋：よろし
くお願いします。

藤井：この間、うちで出しているレポートで、ご
く常識的な数字をまとめてみたのです。

ドル建てで日本の GDP が、各国と比較してどう
だったかということをやりましたら、1995 年と
2020 年を調べてみました。

ですから、表に出たどこでも分かる数字ではあり
ます。

アメリカの GDP が 2.73 倍になっています。

そして、例えばイギリスだって低迷している国と
言われていますが、2.01 倍で約 2 倍になってい
るのです。

フランスが 1.64 倍で、ヨーロッパのイギリス、
フランス、ドイツ、イタリア、スペインの主要 5
カ国の平均を見ても、GDP の伸び率、倍率は 1.
76 倍なのです。

この間、もちろんチャイナは 20 倍以上伸びてい
ます。

日本は、何と 0.91 倍で下がっているということ
です。

ですから、当然 1 人当たりの GDP も下がってし
まっているということです。

日本人から言えば、「イギリス経済なんて終わっ
てんじゃねえか」と思っても 2 倍に伸びています
し、ダメだと思っているスペイン経済だって、数

字の上では 2.09 倍に伸びているわけです。
ダメみたいに言われているイタリアだって、1.6 倍も伸びているわけです。

この間、日本人は一生懸命働いて、もちろん努力はしてきたのだけれど、全然成果は出ていないということです。

そして、これは日本国内の円建ての 1 人当たりの GDP を調べてみたら、1997 年が 1 人当たり約 428 万円で、これを超えるのがようやく 20 年経った 2017 年で、1 人当たり GDP が 433 万円になって、ここでようやく超えたのです。

20 年間の没落と低迷、日本は低迷しているのですけれども、世界中は伸びましたから、相対的に見ると没落ということになります。

この間、安倍政権の時のアベノミクスでだいぶ頑張ってくれた時もあるのだけれども、相対としてはこんなことになってしまいました。

ここにきて、2020 年の春からコロナショックということで、武漢から世界に広がってしまっ、これは世界中同様にかなり被害を受けたわけですが、その後さらにこのウクライナショックです。

ロシアのウクライナ侵攻ということがあって、これも世界中がいろいろな悪影響を受けています。

そして、ここにきて、日本の岸田政権です。

これは相当腰を入れてしっかりとした景気対策を取ってもらわないと、「失われた 20 年」どころではなく、さらに「失われた 30 年」ということになってしまうということなのです。

しかし、どうも財務省の掌中にすっかり収まってしまっているような総理大臣で、折に触れて「増税」という話がチラチラと出てきております。

それが、どうも参議院選挙辺りにはそういった話も出てくるのではないかと思います。

そして、思い切った景気対策もしてくれないと、はっきり言って見通しは非常に暗いと思います。

もう1つ言わせていただければ、いろいろな理由がありますけれども、その間、日本の円もドルに対してどんどん弱くなっています。

これもかなり構造的な理由があるのではないかと私は思っているのですが、とにかく景気が良くありませんし、景気を良くしようという努力も、現政権は非常に欠けていると思います。

少し暗い話になってしまうのですが、その辺りの見通しを、高橋さんに伺いたいということです。

高橋：まず、平成の30年というのがありました。先ほど「横ばいだった」ということをおっしゃっていて、ですから「平成というのは経済成長が平らになってしまったのかな」と、私は思わず思ったくらいな話でした。

これは、いろいろな人がいろいろな意見を言うのですが、私はこういうものを分析するいろいろな要因と今の経済成長の説明というのを見て、その相関係数が高いものを選ぶのです。

要するに、私が今まで調べて、少なくとも国連やIMFデータで全部調べられることで人為的に操作可能な変数というのを見て、そのGDPの動きと一番マッチするというのは、実はマネーの伸び率でした。

マネーの伸び率が、相関係数が0.7ぐらいあって、日本は実は1990年の前までのマネーの伸び率というのが、結構先進国の標準的でした。

ですから、それまでは先進国の標準的な成長をしていましたけれども、実は、その後の 1990 年以降は、もう先進国でビリです。

もちろん、世界でもほとんどビリです。

ですから、それと先ほどのデータと、世界でビリの成長率というのは、結構説明できるのです。

藤井：ぴったり一致しているということですね。

高橋：ですから、私は「これ以外に説明できる話があったら教えてください」と、いつも言っているくらいです。

私は、全部悉皆（しっかい）的に一応やったのですけれども、でも漏れがあるかもしれないから、実は「これ以外に説明力が高いものがあったら教えてください」といつも言っているくらいです。